

S L A 通信

〒460 名古屋市中区正木1-2-8

シニアルネサンス財団 内

第 10 号

☎ 052-332-7883

「定年退職前後の悩み110番」を実施

春も深まってきた3月29日(土)～30日(日)の2日間にわたって、中部S L A協会としては初の画期的な事業“定年退職前後の悩み110番”を実施いたしました。この事業は(財)シニアルネサンス財団とS L A協会全国連絡協議会との共同企画で、去る2月14日(日)名古屋で開催されたS L A協会全国連絡協議会で検討されたものです。この電話相談は過去には、関東、関西各S L A協会が実施いたしました。S L A協会が全国に、東北、関東、中部、関西、中国と5協会も設置されたことに伴い、全国レベルで実施しようとスタートいたしました。当協会も、幹事会で提案検討をし、全会員にその趣旨を伝え、協力を要請し準備に入りました。また事前研修会も実施し体制を整えました。結果は、別表でご覧いただきますように2日間にわたり延112名の方から134件にわたる相談をうけました。また、相談項目も12項目にもものぼり通常の「シニア電話相談」をはるかにオーバーする内容、項目でした。この傾向からもわかりますように実施して、初めて、シニア層がさまざまな悩みをかかえているということが明らかになったといえます。こういった成果の面も評価しつつ、問題点としては、S L Aとしてシニア層に今後どのように働きかけをしていくのか、また、シニア層のもつ悩みや生活上の問題点に対応できるような資質の向上をどう進めていったらよいか、財団から委託されている「シニア電話相談」の研修をどの点にしぼっていったらよいかなどの課題が残っているといえましょう。

「定年退職前後の悩み110番」の考察

この考察は、3月29日(土)～30日(日)の電話相談を担当された方からの意見を集約したものである。

§ 1 運営についての考察

(1) 準備

- 全国S L A連絡協議会(別記)が開催され、全国レベルで意志統一が図られたが、実施までに時間的余裕がなく、準備段階では、忙しかった。例 メンバーの募集、研修、電話機の増設、経費等。例年実施するならば、年間計画をたてて準備期間実施組織を作ることが必要である。
- 電話機の設置場所が、現在の「シニア電話相談室」では手狭で、相談者へのアドバイスにも支障があった。部屋を仕切る。他の部屋を活用するなど考えたい。

(2) 広報

- 当然、地域からの相談が多くなるので、地元中心にT V局、新聞社、その他報道機関へのP R依頼を担当者が積極的に動いたので、別表「ソース媒体別一覧」のような内容となった。報道機関各社にお礼申し上げたい。S L Aとして、今後の電話相談、S L A活動の社会への衆知にも是非連携を考えてゆくべきである。

(3) 実施日について

- 両日も、予定開始時刻以前にすでに電話が鳴っていた。自主的に参加した相談員延20名が3台の電話に対応したが、記録をまとめる時間的な余裕もなかった。スタッフのメンバーの増員、また、報道ルートにのった日から、電話相談があったということから、電話相談日を含めた人的体制を予め考えておく必要がある。

(4) アドバイスについて

・新聞紙上では、専門的立場からの回答もしますとの記述があり、相談者からの質問も専門的な内容の回答を要求する場面もあった。専門的な立場で回答できるメンバーの選定(例 年金-社会保険労務士)も必要であると思う。また当日通常の1人体制では、回答しにくい内容を複数のメンバーで相談しあったり、資料を明示しあえたのはよかったとの担当者の声もあり、アドバイスのための研修の重要性がある。

§ 2 集計結果についての考察

(1) 相談内容についての考察

・相談内容については事前の打合せ会で予想したとおり、中高年者の一番の関心は経済であった。「年金・仕事・生きがい」で、特に「年金関係」の受給額、仕組み、手続き、雇用保険併給である。また、その質問の仕方も、各種多様で、多少知識のある人、まったくわからない人、どんな手続きをしたらよいかわからない人という現状であった。年金制度が難解である上、制度改正もしばしばあり、SLAとしても、この対応のためにも日常的な研修が必要である。しかし、シニアのもつ人生相談的な内容もあってもよかった(家族、住居、健康、医療等)のではないかと思う。

(2) 性別では、男性が54.4%と半数を越えたのは土、日の設定があったからとも考えられる。今後の電話相談日の設定の一要素である。相談担当者から多くのご意見、ご考察をいただき、下記のように集約させていただきました。お力添えにお礼申し上げます。

「定年退職前後の悩み110番」受付相談内訳
(件数ベース)

	相談件数			%	順位
	29日	30日	合計		
1. 健康	1	3	4	3.0	6
2. 医療		3	3	2.2	9
3. 介護					
4. 痴呆					
5. 年金	39	36	75	56.0	1
6. 税金	1	2	3	2.2	9
7. 財形					
8. 相続	2		2	1.5	11
9. 結婚					
10. 離婚					
11. 住居	3	1	4	3.0	6
12. 家族	1	3	4	3.0	6
13. 人間関係	4	2	6	4.5	4
14. 生きがい	5	5	10	7.5	3
15. 仕事	6	10	16	11.9	2
16. 趣味					
17. 商品トラブル	2		2	1.5	12
18. その他		5	5	3.7	5
合計	64	70	134件	100.0	

「定年退職前後の悩み110番」ソース媒体別一覧

媒体	No.	名称	3/29	3/30	合計	%	媒体別順位	全媒体別順位
新聞	1	中日新聞	39	28	67	59.8	1	1
	2	朝日新聞	3	6	9	8.0	2	2
	3	毎日新聞	1	2	3	2.7	4	5
	4	読売新聞	1	0	1	0.9	5	8
	5	奥様ジャーナル	0	1	1	0.9	5	8
	6	新聞(名称不要)	6	0	6	5.4	3	4
						全媒体比		
	計		50	37	87	77.7		
放送	1	中京TV		9	9	8.0	1	2
	2	NHKTV		2	2	1.8	2	7
	3	CBCTV		1	1	0.9	3	8
	4	ラジオ	1		1	0.9	3	8
						全媒体比		
	計		1	12	13	11.6		
複合	1	中日新聞+ラジオ	0	3	3	2.7	1	5
	2	毎日新聞+中京TV	0	1	1	0.9	2	8
						全媒体比		
	計		0	4	4	3.6		
	不明(踏のなかったもの及び記入誤り)		6	2	8	7.1		
	総計		57	55	112	100		

〈人数ベース〉

	29日	30日	合計
男性	31	31	62
女性	26	24	50
計		112人	

誰についての相談か

	29日	30日	合計
自分	46	42	88
配偶者	10	8	18
その他	1	5	6
計		112人	

電話相談担当員人数

第1日 3月29日(土)-延11人

第2日 3月30日(日)-延9人

計 延20人



第1回全国SLA連絡協議会開催される

かねてから懸案の全国SLA協会連絡協議会が名古屋で下記のように開催され連携を深めました。

概 要

1. 日 時 平成9年2月14日(金) 午前11時30分～午後4時30分
2. 場 所 名古屋駅前高砂殿
3. 出席者 東北・関東・中部・関西・中国各SLA協会会長及び副会長各1名
中部SLA協会副会長2名、シニアルネサンス財団事務局担当者
SRクラブ事務担当者 計14名(関東副会長は財団評議員兼任)

4. 協議概要

(1) 各SLA協会活動状況

- ・東 北 支部はH8・10に発足。会員43名 幹事会は、月1回。電話相談は27名が担当。相談件数は少ない。電話相談のPRのチラシを財団が作ってくれた。
- ・関 東 会員の6割が女性。メンバーが非常に活発。沿線に沿って地域を4つにわけている。全体研修会を国立婦人教育会館で、2泊3日で実施した。会報は年4回発行。研修委員会でパソコン教室を年2回。商品研究会。スウェーデン福祉勉強会-H9・6に研修旅行に行く予定。
- ・中 部 2件のアンケートを今年行なった。会のもち方の工夫をしている。例 食事をしながらの会は出席がよい。会報は4回。会員は145名
- ・関 西 “関西SLAプラザ”発行。毎日新聞にコラム連載「それいけ！シニアライフ」。ワープロ・パソコン通信の勉強会。シニア生き生きネットフォーラムの発足。講師の依頼がぼつぼつ来ている。総務・企画・研修・広報の委員会がある。
- ・中 国 研修は自分たちが講師をしている。幹事は20名。幹事会は月1回。幹事の半分が、出席。市が百貨店のコーナーを借りて「シルバー祭」をした。SLAは、相談を担当した。「生き生き教室」を公民館と共催。6回のうち3回をSLAが担当。地方自治体とコンタクトをとって行事を行うと経費を使わずにすむ。公民館まわりも必要である。

(2) 協議事項と内容

- ① 「定年退職前後の悩み110番」の実施について-前ページ参照
- ② SLA講師リストの作成
関東SLAでは会員に「自分のできることは」と自己申告をしてもらい講師リストを作ったが、申し出は少なかった(200人中55人)
講師リストは、SLAの財産にもなるし、他にもPRしていく資料になる
- ③ SLAの社団化について
メリット-対外的な信用。委託事業がうけられる。必要条件-設立趣旨の確立。時代にあった事業。基金の活用等(入会金は、入会したSLAで保管する)

会費納入のお願い

本年度の会費未納の方は下記までご納入ください

振込銀行口座 東海銀行笹島支店 口座番号 ①1411404

振込先 中部シニアライフアドバイザー協会

〒464 名古屋市中区正木1-2-8 互助会ビル4階

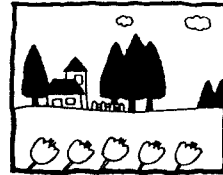
(財)シニアルネサンス財団内 ☎052-332-7883

年会費 3,000円

平成9年度総会において、議案書・議題及び幹事・監査の候補者すべてが承認されましたことをお知らせします。

SLA ット 広場

スラ ット ひろば



暮らしの中で考えたこと

油田 淑子

何年か前、名古屋市の福祉の10カ年計画策定の時、行政の側に、市民の声を本気で聞く姿勢が欠け、モノ申す市民を疎んじる傾向が強いなあと感じたことがありました。一般的に、事前に職員が机上でたやすく実現できそうな計画をたて、形式的に都合の良い意見を聞くだけという構図が多すぎるような気がします。机上で完璧に見えても、実体にそぐわない場合が多いから無関心や反対が多く、結局行政の負担ばかりが残り、成果が上がらないのではないのでしょうか。計画段階から市民が参加していれば、批判を凌ぐ市民の主体的な参加や盛り上がり期待できるはず。活力を取り戻すには、開かれた行政と市民の主体的な参加が鍵となることと信じてます。

21世紀はもう手が届くところに来ています。今、進歩と活力を失っているのは名古屋だけではなくありません。日本はこれまでのやり方や価値観を見直し、思い切って大きな変革をとげなければ、世界から取り残されると有識者は力説しています。とりわけ官僚主導から脱却し、主権者たる市民の関わりと市民の代表たる力強い政治家が求められています。NGO法案も議論されていますが、SLA協会なども、こうした流れのなかで、しっかり方向を定め、市民レベルの意見を提案し、行動を起こしていく時期にきているように思われます。会員の皆様は如何お考えでしょうか。

☆施設の紹介——「名古屋国際会議場」

地下鉄名城線「日比野」または「西高蔵」から徒歩5分のところに名古屋国際会議場があります。

大規模な国際会議や講演会・コンサートに利用できるセンチュリーホールを始め、大、中、小の会議室が25室があります。

会議場の中には、地上54mのところにある展望レストラン、レオナルド・ダ・ヴィンチの設計画をもとに製作された高さ8mの巨大な騎馬像、広々とした庭園(オアシス広場)が完備されており、ここから堀川沿いに南へ5分も歩けば、美しい白鳥庭園の北門に着きます。

都会の創造された空間を楽しむには面白い場所です。

名古屋国際会議場 名古屋市熱田区熱田西町1-1
TEL 052-683-7711

◎中部SLA会員名簿の訂正ついて◎

下記のように連絡がありましたので、名簿の加除訂正をお願いいたします。

◆新規会員 ・第5期生 96-02-185 梅木 房子
〒507 多治見市音羽町1-10-3 音羽苑604
☎0572-23-9597

◆住所変更 ・第3期生 94-02-143 鈴木 稔
〒460 名古屋市中区栄1丁目23-32-901
☎052-232-6960

・第5期生 96-02-196 茅壁 幸子
〒939-06 富山県下新川郡入善町上野1360-13
サラリーハイツウわの201
☎0765-74-2057